

各学部の授業づくり

年間3回「授業づくり研修会」を行い、茨城大学の新井英靖教授から教科の本質や発問、思考についての助言をいただき、授業づくりや授業改善に生かしました。

肢体小

図画工作科「トイレットペーパーってどんな感じかな？」

小学部3年(造形遊び)

変幻自在で身近な素材のトイレットペーパー。感触や形の変化を体全体で味わうことができるよう、「おふろコーナー」や「ひっぱれコーナー」等、素材の面白さが際立つ環境設定を工夫しました。

構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・育てたい児童の姿を具体化
- ・十分に感触を味わえる素材選び
- ・素材の面白さが際立つ魅せ方
- ・素材の“感じ”に気づく声かけ

本時の授業

本時の探究課題

トイレットペーパーってどんな感じがするかな？

- ・山盛りの素材に引き寄せられ、思わず手を入れて動かす
「なんだ、これ？ふわふわでおもしろい！」
- ・移動する時に体に絡まったトイレットペーパーが偶然伸びる…“引っ張られる”が、いつのまにか“引っ張る”に
- ・児童の表現を、教師は言葉にして共有する
「伸ばしたね！伸ばしたね！」

新井教授の助言

“ぎゅっ！”と握る等、空間に働きかけ、何かを変えようとしたらそれが児童の表現

造形遊びの中で対象世界(トイレットペーパー空間)を変化させながら、自分の内面も変化させている



授業者の学びと授業改善のポイント



空間に働きかける姿を引き出す仕掛け

素材に触れたいくなるような提示の仕方や環境設定も発問
児童の思いをくみ取った教師の意図的な働きかけ

重度重複障害のある児童が能動的に働きかけようとしている思いをくみ取り支援することが児童の表現につながる

知的小

図画工作科「トイレットペーパーのへんしん」小学部1年(造形遊び)

素材と十分にかかわることをとおして、素材のよさや面白さに気づき、自ら表現する楽しさや心地よさを感じる…そんな児童の姿を目指して授業を考えました。児童がワクワクして思わずやってみたくなる遊びの中で、教科「図画工作」として造形的な見方・考え方を働かせることができるような単元計画や状況設定、教師のかかわりについて吟味し検討を重ねました。

構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・活動ありきではなくねらいを中心に
- ・思わず素材にかかわりたくなる環境
- ・児童が思考する具体的な姿
- ・図工(教科)の視点での見取りと評価

新井教授の助言

子どもたちが表現し、制作していく教室空間を一つのキャンパスと捉える

造形物を変化・発展させていく継続した学びの見取りと評価



本時の授業

本時の探究課題

トイレットペーパーがへんしんするよ どんなへんしんかな

- ・素材の形状が変わることが楽しくて、引っ張ったり丸めたり…ダイナミックな素材とのかかわり！
- ・はじめは遠くから見ていた児童が、徐々に素材に近づき、最後にはトイレットペーパーにくるまって笑顔に
- ・児童が遊びの中で「造形的な見方・考え方」を働かせることができるような教師の働きかけの工夫

授業者の学びと授業改善のポイント

エピソードをためて単元をとおした評価

児童の内面を推測しながら記録をためていき、かかわりの見直しと学びの深まりを評価

活動場所全体が制作物という捉え

造形的な表現を楽しみながら、発想をリニューアルさせ空間全体をつくり上げるという視点

